

平成 21年 6月 2日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005～2008

課題番号：17320045

研究課題名（和文） フランス第三共和制における文学・政治・宗教

研究課題名（英文） Literature, politics and religion under the French Third Republic

研究代表者

石井 洋二郎（ISHII YOJIRO）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

90134402

研究成果の概要：本研究では、さまざまな矛盾を内包したフランスの第三共和制時代（1870年～1940年）に焦点を当て、文学・政治・宗教という三つの分析軸を立てた上で、これらを相互に関連させながらその特徴を解明することを試みた。その結果、19世紀の作家の受容をめぐる文学と政治の関係、両大戦間における文学の政治性、アナキズムと美学の関係、政教分離をめぐる国家と宗教の葛藤などの諸問題が多様な観点から明らかにされた。

交付額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2005年度 | 3,500,000 | 0 | 3,500,000 |
| 2006年度 | 2,200,000 | 0 | 2,200,000 |
| 2007年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2008年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 7,300,000 | 480,000 | 7,780,000 |

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・仏語・仏文学

キーワード：フランス、第三共和制、文学、政治、宗教、アナキズム、政教分離

1. 研究開始当初の背景

- (1)本研究は、基盤研究（B）(2)「フランス第二帝政下における都市の変容と文学・芸術」（2002～2005、研究代表者：石井洋二郎）の進展を踏まえた上で、その最終年度に、研究計画最終年度前年度の重複応募制限の特例として申請され、新規に開始されたものである。
- (2)フランス第二帝政に関する基盤研究の大きな成果のひとつに、研究代表者の石井を中心として編まれた論文集、『フランスとその〈外部〉』（東京大学出版会、2004）があるが、これを準備していく過程で、そ

れまで扱ってきた第二帝政期における文学・芸術の諸問題は、植民地の拡大、教育の非宗教化、知識人の政治参加、等々のさまざまな社会現象と密接に関わっており、これらはほとんどすべてが、その後に成立した第三共和制時代のフランスを研究しない限り十分には解明されないであろうという認識をもつに至った。そこで、第二帝政に関する研究が一定の成果をあげた時点でこれを第三共和制へと継続・発展させていくことが不可欠であると考え、若干のメンバーの入れ替えをおこなった上で、新たな課題を立てることにした。

(3) 以上の経緯から、本研究においては従来の研究をただ時代的に延長するだけではなく、対象とする領域も大幅に拡張することが必要となった。フランスの第三共和制時代は70年の長きにわたっており、その間には第一次世界大戦をはじめとしてさまざまな歴史的イベントが生起している。したがってこの時期の文学や芸術の問題を考える場合、これを政治や宗教と切り離して扱うことはできない。そこで、新たな研究では文学・政治・宗教を含めた領域横断的な観点を重視することとした。

2. 研究の目的

(1) フランスの第三共和制は、20世紀初頭のいわゆる「ベル・エポック」の華やかさと、やがて空前の死者を出すことになる第一次世界大戦の暗い記憶が共存する時代であり、「人民戦線」のオプティミズムがファシズムの暗い影と共存する時代であった。換言すれば、それは外部からのさまざまな圧力（ロシア革命によるボルシェビキ政権の誕生、日本を筆頭とする新興アジア勢力の伸長、そしてナチス・ドイツの急速な台頭など）を反映しつつ、フランス内部のあらゆる領域で相対立する力の緊張が高まった時代であったといえる。文学を直接的な材料として、こうした種々の矛盾の実態を明らかにすることが、本研究の基本的な目的である。

(2) そのためには、文学作品をただ文学作品として読むだけでなく、政治や宗教との関わりにおいてその意義を問い直す作業が不可欠になる。具体的には、以下のような課題が設定された。

過去の文学・思想（たとえば18世紀の空想的社会主義、19世紀のロマン主義など）が、第三共和制期にどのような思想的・政治的文脈の中で受容されたのか（あるいは受容されなかったのか）を明らかにすること。

同時代、すなわち第三共和制時代の文学・思想（ゾラなどの自然主義、ブルトンをはじめとするシュルレアリスム、サルトルに代表される実存主義、等々）が、ドレフュス事件や公教育の非宗教化、第一次世界大戦、植民地博覧会、文化擁護のための世界作家会議などの出来事といかに関わりをもち、時代とどのように切り結びながら形成されていったのかを解明すること。

(3) 以上の方針のもとに、文学・政治・宗教という三つの視点を絶えず相互に関連付けながら、第三共和制がはらむ多面性と諸矛盾を立体的に解明することが本研究の最終的な目的である。

3. 研究の方法

(1) 第三共和制に関する基礎資料を収集する。そのために、研究代表者・研究分担者が何度かフランスに渡航し、フランス国立図書館等で資料調査・収集を行う。

(2) 収集した資料を利用して、研究代表者・研究分担者がそれぞれの分担に従って各自の個別的研究を進展させる。

(3) 各自が進展させた研究を論文等の形で公刊するとともに、討論の機会を設けてその成果を相互の研究に還元する。

4. 研究成果

(1) 研究代表者の石井洋二郎は、大きく言って二つの線に沿って成果をまとめた。

第二帝政時代の詩人ロートレアモンが第三共和制時代の作家・思想家たちにどのように受容されたかという問題に取り組み、このテーマについての考察を含む著書『ロートレアモン 越境と創造』（筑摩書房、2008）を刊行した。本書は文化庁から平成20年度芸術選奨文部科学大臣賞を授与され、社会的にも高く評価された。

18世紀の空想的社会主義者、シャルル・フーリエの思想が第三共和制時代の作家・思想家たちにどう受容されたかという問題に取り組み、このテーマについての考察を数編の論文で発表したのち、著書『科学から空想へ よみがえるフーリエ』（藤原書店、2009、ただし4月刊行なので以下のリストには不掲載）にまとめて刊行した。

(2) 研究分担者の鈴木啓二は、19世紀の詩人ボードレールについての論考をフランス語で発表し、この詩人が第三共和制にまで影響の及ぶ重要な存在であることを明らかにした。

(3) 連携研究者（2007年度までは研究分担者）の山田広昭は、数編の論文を発表し、主として第三共和制時代におけるアナキズムと美学思想との関連について考察を展開した。

(4) 連携研究者（2007年度までは研究分担者）の工藤庸子は、著書『宗教 v s . 国家』（講談社、2007）によって第三共和制時代における政教分離の問題を論じ、『砂漠論』（左右社、2008）によってヨーロッパ文明を相対化する視点からフランスの文学を論じたほか、数編の論文と二度の学会発表で課題に関連する問題提起を行った。

(5) 以上の個別的成果のほか、石井はロートレアモンに関する著書を博士論文として東京大学に提出し、鈴木がその主査を務めた。その審査会は、本研究に関する共同討議の場としても位置づけることができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 30件)

1. 石井洋二郎、「快樂の言語 フーリエとバルト」,「環」36号、藤原書店、2009、288p-303p、査読無
2. 石井洋二郎、「変革への意志 フーリエとブルトン」,「環」35号、藤原書店、2008、300p-315p、査読無
3. 石井洋二郎、「パサーージュの思考」,「環」34号、藤原書店、2008、278p-291p、査読無
4. 石井洋二郎、「拡散する波動」,「環」33号、藤原書店、2008、276p-293p、査読無
5. 石井洋二郎、「真理から遠く離れて - イジドル・デュカス『ポエジー』を読む」,「Odyseus」第12号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、2008、41p-63p、査読無
6. 石井洋二郎、「美食学の誕生」,「環」32号、藤原書店、2008、276p-287p、査読無
7. SUZUKI, Keiji (鈴木啓二)、「Mimesis et imagination chez Baudelaire」、*Baudelaire et les formes poétiques*, Presses universitaires de Rennes, 2008、143p-155p、査読無
8. 山田広昭、「アナキズムからファシズムへの変転：フランス・ドイツのゼネスト論の思想的系譜」,「at」14号、太田出版、2008、95p-105p、査読無
9. 工藤庸子、「ヨーロッパ文明批判と性的支配 「正しさ」の意識をめぐる」,『聖的支配と歴史 植民地主義から民族浄化まで』,大月書店、2008、67p-94p、査読無
10. 石井洋二郎、「自己反省性の歴史学」,「大航海」65号、新書館、2007、156p-159p、査読無
11. 石井洋二郎、「恋愛のポリテクス」,「環」31号、藤原書店、2007、368p-379p、査読無
12. 石井洋二郎、「近代日本の西洋文学者たち」,「大航海」64号、新書館、2007、119p-125p、査読無
13. 石井洋二郎、「ピエール・ブルデューと知識人の物語」,「神奈川大学評論」57号、神奈川大学、2007、47p-56p、査読無
14. 石井洋二郎、「フーリエの夢想都市」,「環」30号、藤原書店、2007、386p-398p、査読無
15. 石井洋二郎、「オーウェンとフーリエ」,「環」29号、藤原書店、2007、397p-409p、査読無
16. 石井洋二郎、「呼びかけるテクスト」,「環」28号、藤原書店、2007、327p-339p、査読無
17. 鈴木啓二、「阿部良雄、状況の中の思考者」,「水声通信」18号、水声社、2007、116p-123p、査読無
18. 山田広昭、「アナキズムと美学：1890年代の文学の一断章」,「at」10号、太田出版、2007、92p-102p、査読無
19. 工藤庸子、「ジェンダーとポストモダン」,「神奈川大学評論」57号、神奈川大学、2007、65p-72p、査読無
20. 石井洋二郎、「地球の生涯をめぐる」,「環」27号、藤原書店、2006、270p-281p、査読無
21. 石井洋二郎、「フランス文学と身体 - 「食」の主題系をめぐる」,『身体フランス文学』,京都大学出版会、2006、1p-21p、査読無
22. 石井洋二郎、「唇・皺・傷 マルドロールの<身体なき器官>」,『身体フランス文学』,京都大学出版会、2006、165p-181p、査読無
23. 石井洋二郎、「協同体と情念引力」,「環」26号、藤原書店、2006、274p-285p、査読無
24. 石井洋二郎、「「空想い」する人々」,「環」25号、藤原書店、2006、388p-399p、査読無
25. 石井洋二郎、「ニート・遊歩者・ポヘミアン」,「大航海」58号、新書館、2006、89p-97p、査読無
26. 石井洋二郎、「変容するパリと文学の風景 ボードレールとロートレアモンの場合」,『フランス第二帝政における都市の変容と文学・芸術』,科学研究費補助金研究成果報告書、2006、71p-80p、査読無
27. YAMADA, Hiroaki (山田広昭)、「Carl Schmitt and War : On The Nomos of the earth」, *Translation, Biopolitics, Colonial Difference, Traces 4*, Hong Kong University Press, 2006、211p-233p、査読無
28. 工藤庸子、「足の考古学 『感情教育』とフェティシユ」,『フランス第二帝政における都市の変容と文学・芸術』,科学研究費補助金研究成果報告書、2006、15p-24p、査読無
29. ISHII, Yojiro (石井洋二郎)、「Le Corps de Maldoror」, *La Littérature Maldoror, Actes du Septième Colloque international sur Lautréamont, Cahiers Lautréamont LXXI-LXXII*, 2005、59p-64p、査読無
30. 工藤庸子、「マリアとマリアンヌ 宗教社会学としての『ルルド』」,『ゾラの可能性 表象・科学・身体』,藤原書店、2005、37p-60p、査読無

〔学会発表〕(計 2件)

1. 工藤庸子、「ヨーロッパ文明批判と性的支配」、一橋大学 COE ヨーロッパの革新的拠点、2007年7月14日
2. 工藤庸子、「ナボコフとブルースト」、日本ナボコフ協会 2007年度大会、2007年6月9日

〔図書〕(計 3件)

1. 石井洋二郎、『ロートレアモン 越境と創造』、筑摩書房、2008、592p+viiip
2. 工藤庸子、『砂漠論 ヨーロッパ文明の彼方へ』、左右社、2008、252p
3. 工藤庸子、『宗教 v s . 国家 - フランス < 政教分離 > と市民の誕生』、講談社現代新書、2007、206p

〔その他〕

1. 石井洋二郎・石川美子・松浦寿輝、「意味に抗った含羞の人」、ロラン・バルトについての鼎談、「文学界」新年号、文藝春秋社、2005、156p-175p

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石井 洋二郎 (ISHII YOJIRO)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：90134402

(2) 研究分担者

鈴木 啓二 (SUZUKI KEIJI)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：70187722

(3) 連携研究者

山田 広昭 (YAMADA HIROAKI)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：40210471
工藤 庸子 (KUDO YOKO)
放送大学・文化科学研究科・教授
研究者番号：30139638